

長井崎中学校区小中一貫学校基本計画

沼津市教育委員会

令和元年12月

はじめに

本市では、今後における教育の方向性を明確に示し、教育施策を総合的に進めていくための指針として沼津市教育基本構想を策定し、「明日の社会を担う『夢ある人』づくり」を目的とした様々な施策を実施しています。

全国的に少子高齢化が進む中、沼津市教育委員会は、平成29年度に「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」を策定し、よりよい教育環境の整備や教育の質の更なる充実を図るために学校規模・学校配置の適正化に取り組んでいます。

平成26年4月には、新設の施設一体型としては県内初となる静浦小中一貫学校を開校し、令和3年4月には、戸田地区において施設一体型の小中一貫学校を開校する予定です。また、平成31年4月からは、市立高校中等部を除く市内の全小中学校を「中学校併設型小学校・小学校併設型中学校」とし、既存の小中学校の枠組みは残したまま、義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施して、小中一貫教育の更なる充実に取り組んでいるところです。

長井崎中学校区においては、児童生徒数の著しい減少が続いており、早急に一定の集団規模の確保及び教育の質の維持・向上を図っていく必要がありました。そこで、平成29年度、長井崎中学校区の学校規模や学校配置の適正化を図るために、「長井崎中学校区小中一貫校化推進委員会」を設置し、具体的な方向性について協議を進めてきました。その結果、令和元年5月、長井崎中学校区の学校規模・学校配置の適正化の方針として、令和3年4月に内浦小学校と西浦小学校を統合し、長井崎中学校と併せて小中一貫学校を開校することを決定しました。

本基本計画は、推進委員会での協議や長井崎中学校区の児童生徒の実態、学校現場の声等を踏まえ、次の3点を基本コンセプトとしています。

1 「自ら学び、自ら関わり、自ら鍛えていく子の育成」

異年齢交流の活性化や自尊感情を育てる取組を通じ、誇りを持ち、たくましく、前向きに生きる子を育成します。

2 「学力の保証」

義務教育9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施し、小中学校9年間で学ぶ内容を見通した指導、少人数であることを生かしたきめ細やかな指導を通じ、学力を保証します。

3 「地域を愛する心の醸成」

内浦・西浦の人・自然・歴史・文化・産業等を生かした豊かな体験活動を通じ、地域に誇りを持ち、地域のために行動しようとする態度を育みます。

この基本コンセプトの下、目指す子供の姿を学校・家庭・地域が共有し、子供たちの健やかな成長を目指します。

目 次

I	長井崎中学校区小中一貫学校のねらい	1
II	基本コンセプト	2
III	基本プラン	
1	自ら学び、自ら関わり、自ら鍛えていく子の育成	
(1)	異年齢交流の活性化	3
(2)	自尊感情※を育てる取組	4
2	学力の保証	
(1)	9年間の系統性・連続性を大切にした小中一貫教育	5
(2)	一人一人の学習状況に即したきめ細やかな指導	7
(3)	ICT※を活用した教育	8
3	地域を愛する心の醸成	
(1)	「ふるさと内浦・西浦」から学ぶ活動	9
(2)	地域とのつながりの中で学ぶ活動	9
(3)	将来へつながる活動	10
IV	施設整備に関する基本方針	
1	施設整備に関する基本的な考え方	11
2	施設整備の主な方針	11

※ 自尊感情…自己に対して肯定的な評価を抱いている状態を指すSelf-esteemの日本語訳

※ ICT…Information and Communication Technology の略。情報通信技術

I 長井崎中学校区小中一貫学校のねらい

長井崎中学校区小中一貫学校は、「沼津市教育基本構想」「沼津市立小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針」に基づき、9年間の系統的な教育課程※を編成・実施する小中一貫教育を推進していくことにより、子供たちにとってよりよい教育環境の整備、教育の質の更なる充実を図ります。

<沼津市が目指す学校教育>

沼津のよさを生かしながら、言葉を大切にして豊かな感性・豊かな知性・健やかな心身を自ら身に付けることや、人と人が互いに学び合うことなどを通して大きな志やビジョンを持つ「夢ある人」を育てます。



<長井崎中学校区小中一貫学校のねらい>

- ① 「自ら学び、自ら関わり、自ら鍛えていく子の育成」
異年齢交流の活性化や自尊感情を育てる取組を通じ、誇りを持ち、たくましく、前向きに生きる子を育てます。
- ② 「学力の保証」
義務教育9年間を見通した教育課程を編成・実施し、9年間の系統性や連続性を大切にした指導、一人一人の学習状況に即したきめ細やかな指導、ICTを活用した教育を通じ、学力を伸ばします。
- ③ 「地域を愛する心の醸成」
「ふるさと内浦・西浦」から学ぶ活動、地域とのつながりの中で学ぶ活動、将来へつながる活動を通じ、地域に誇りを持ち、地域のために行動しようとする態度を育みます。



<目指す子供の姿>

- ◎ 広い視野を持ち、確かな学力を身に付け、自ら切り拓く子供
- ◎ 地域の人・自然・歴史・文化・産業等について深く理解し、「ふるさと内浦・西浦」を誇りに思い、大切にしていこうとする子供

※ 教育課程・・・学校教育の目的や目標を達成するための授業や行事等の総合的な教育計画

誇りを持ち たくましく 前向きに生きる子

～長井崎中学校区小中一貫学校における取組～

1 自ら学び、自ら関わり、自ら鍛えていく子の育成

- (1) 異年齢交流の活性化
- (2) 自尊感情を育てる取組

2 学力の保証

- (1) 9年間の系統性・連続性を大切にした小中一貫教育
- (2) 一人一人の学習状況に即したきめ細やかな指導
- (3) ICTを活用した教育

3 地域を愛する心の醸成

- (1) 「ふるさと内浦・西浦」から学ぶ活動
- (2) 地域とのつながりの中で学ぶ活動
- (3) 将来へつながる活動

Ⅲ 基本プラン

1 自ら学び、自ら関わり、自ら鍛えていく子の育成

(1) 異年齢交流の活性化

- ① 日常的な異年齢交流を活性化し、思いやりの心や自らの将来をイメージする力を育みます。
- ② 「自分の考えを伝える」「相手の考えを聴く」場を多く設定し、思考力・判断力・表現力を育みます。

ア 異年齢交流の中で考えを伝え合う場面の設定

学年の枠を超えて活動する縦割り活動[※]を中心に、日常的な異年齢交流を促進します。

交流の際は、相手の学年に応じた適切な手段や表現、言葉、文章を用いるように意識し、自分の意見を分かりやすくはっきり伝えるとともに、相手の話をしっかり聴くことができるような場面を設定します。

イ 思いやりの心や将来をイメージする力の育成

活動を通して、上級生が下級生の憧れの対象になろうとする意識や、下級生を思いやる気持ちを育てていきます。上級生と活動する中で、下級生が自分の目標や近い将来の見通しを具体的にイメージできるようにします。

4－3－2制の各学年段階の区切り（初志部・立志部・大志部）では、上級学年でリーダー経験をすることにより、思いやりの心を育むとともに、次の学年段階の区切りへの自信や進級・進学への意欲を高めます。

※ 縦割り活動・・・小中9学年の異年齢集団による交流活動

(2) 自尊感情を育てる取組

- ① 自ら目標を設定し、自ら切り拓く活動を充実させることにより、自信を持って表現する力を育てます。
- ② 子供同士が自分の考えを伝え合う場を大切にし、相手の立場や考えを尊重しながら自らを見つめる力を養います。

ア 自ら気づき、考え、実行する力の育成

9年間の学校生活を通じて、子供一人一人がその発達段階に応じて、解決すべき課題に気づくようにし、自ら目標を設定する場面を意図的に設けます。また、解決場面においては、自ら考えて行動する姿を複数の教職員が支え、成功体験を重ねることで、達成感や充実感を味わい、自信を持って表現する力を育てます。

イ 他者との関わりを通して、互いに鍛え高め合う子の育成

他者との対話を通して自分の考えを明確にし、他者を理解する学習経験を積むことで、互いの存在について理解を深め、尊重する態度を育てていきます。交流する場面では、切実な問いの解決に向けて、相互に刺激し合い高め合うことができるような学習展開を設定します。

特別の教科道徳の時間では、問題に対する自分の考えを他者と対話しながら解決していくことを重視し、多面的・多角的な考え方に触れる機会を設けます。このことを通して、相手の考えを尊重しながら自らを高めようとする態度を育みます。

ウ 教科担任制の導入

教職員全体で子供を見守る体制を充実させるとともに、4-3-2制の学年段階の区切りごとに目指す子供の姿を明らかにすることにより、発達の段階に応じて、自尊感情を育みます。

2 学力の保証

(1) 9年間の系統性・連続性を大切にした小中一貫教育

- ① 9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施し、知・徳・体をバランスよく育みます。
- ② 各教科等で育む資質・能力を明確にし、9年間の学びの連続性を大切に授業を実施します。
- ③ 教職員の子供観・授業観・指導観など、9年間の成長を見通した指導を行います。
- ④ 教科や活動内容によって学習集団を工夫し、少人数学級のデメリット解消に努めるとともに、学力の維持向上を目指します。

ア 9年間の系統性を確保した教育課程の編成・実施

義務教育9年間のゴールを見据えた目標や具体的な子供の学びの姿を全教員で共有し、系統性を確保した教育課程を編成・実施します。また、施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、学年段階の区切りを子供の育ち（発達段階や学習内容、学習方法）に即した4－3－2制とし、発達や学びの連続性を確保します。9年間で目指す子供の姿を明確にし、児童生徒の学習状況や地域の実態等を踏まえた上で、一人一人に最適な支援を行います。

イ 「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成

基礎的な知識及び技能、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、学びに向かう力を、9年間を通して育てます。

道徳教育は、指導の重点化を図り、特別の教科道徳における問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を要として学校の教育活動全体を通して行い、道徳性を育てます。

体育・健康に関する指導は、学校の教育活動全体を通して適切に行い、生涯を通して健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培います。

ウ 各教科におけるつながりを大切にした授業の実施

各教科等で育む資質・能力を明確にし、9年間の学びの連続性を大切にした指導計画に基づいた授業を実施します。全ての教員が、9年間の学習内容の全体像を把握し、系統性や連続性を考慮した指導をすることで、子供たちの学ぶ意欲を高めます。そして、各教科で学ぶことを、総合的な学習の時間や言語科（読解の時間）を通して関連付け、実社会に生きて働く力にしていきます。

エ 9年間の成長を見通した指導

9年間の連続したカリキュラムや4－3－2制の学年段階の区切りのもと、全ての教員が子供観や授業観、指導の方法を共有し、一貫した指導を行います。このことにより、教員や学年が変わっても子供たちが戸惑うことなく学習に取り組めるようにします。また、全ての教員が、主体的・対話的で深い学びを実現する授業について共有するための研修を進めます。

オ 教科担任制の導入

施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かして、1年生から4年生までで段階的な教科担任制を導入します。5年生からは教科担任制とし、より専門性の高い授業を実施することで、学力の向上を目指します。子供の様々な面を多角的な視点で見るとともに情報共有を行うことにより、一人一人のよさを最大限引き出すことにつなげていきます。

カ 少人数学級への対応

施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、教科の活動内容などにより単独の学年で授業を行ったり、活動の制限解消や多様な考えに触れるために複数の学年で授業を行ったりします。また、ICTを活用した学習を意図的に計画していきます。これらのことにより、少人数学級のデメリット解消に努め、学力の維持向上を目指します。

キ 施設一体型小中一貫学校の特色を生かした行事等の設定

教育課程の編成においては、9年間で目指す子供の姿を明確にした上で、異年齢集団による合同授業や、9学年で取り組む学校行事を設定し、日常的な異年齢交流の機会を意図的に設けることにより、社会性の向上を図ります。

また、カリキュラム・マネジメントを進め、教科横断的な視点を持って、地域の人的・物的資源を活用し、中期的なスパンで評価・改善を図ります。

入学式や卒業式、運動会、修学旅行などの行事については、施設一体型小中一貫学校の特色を生かした形とし、そのねらいを達成できるようにします。

(2) 一人一人の学習状況に即したきめ細やかな指導

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を把握し、補充指導や個別指導、繰り返しの学習等を行い、学力の維持向上を目指します。
- ② 一人一人の興味・関心を大切にし、学習意欲の向上を図るとともに、知的好奇心や探究心を育みます。

ア 個に応じた指導

少人数であることよさを最大限に生かし、子供たちの学習状況に応じて個別指導をはじめとした様々なアプローチをしていきます。また、施設一体型小中一貫学校であることのメリットを生かし、全教職員が子供たちの学習に関する情報を日常的に共有することで、一人一人を大切にされた適切な指導につながるよう子供たちの学習を支えます。

イ 主体的な学習

一人一人の興味・関心を生かした学習を展開し、自ら問題を発見・解決する授業を行うことで、主体的に取り組む意欲を高めます。教科指導はもちろん、総合的な学習の時間や言語科（読解の時間）、特別活動における指導を通じて、探究する喜びを育みます。

(3) ICTを活用した教育

- ① ICTの特長を生かした授業等を実施することにより、学習活動の充実を目指します。
- ② 子供たちが多様な意見や考え方に触れたり、より多くの人数で共に学習する経験をしたりするためにICTを活用します。
- ③ ICTの活用により、社会を生き抜く力を身に付けます。

ア 学習内容のより深い理解のための活用

日々の授業の中で、積極的にICTを活用し、その強みを生かすことで、子供たちの意欲を引き出し、主体的・対話的で深い学びを支える情報活用能力を育成していきます。

ICTの効果的な活用やプログラミング教育の確実な実施などにより、学習内容のより深い理解を促すとともに論理的思考力を高め、変化の激しい未来を主体的にたくましく生き抜く力を育みます。

イ 多様な意見や考えに触れるための活用

タブレット端末や校内ネットワーク、大型提示装置などを活用して情報共有を行い、これまで以上に効果的な協働的問題解決を行っていきます。

また、インターネットを活用し、オンライン会議システムや協働学習支援ソフト*などを利用することにより、遠隔地と合同授業や意見交換などを行い、積極的にコミュニケーションを進めていきます。交流の場を多く設けることにより、多様な意見や考えに触れたり表現の機会を広げたりし、思考の深まりや社会性の伸長を図り、少人数であることのデメリットを補い、教育の質の向上を図っていきます。

※ 協働学習支援ソフト…文部科学省の推進する「教育の情報化ビジョン」に即した協働学習を実現させるソフトウェア。校内での協働学習に限らず、遠隔地との交流や外部の専門家を交えての学習も可能。

3 地域を愛する心の醸成

(1) 「ふるさと内浦・西浦」から学ぶ活動

内浦地区、西浦地区の豊富な教育資源（人・自然・文化・産業等）を積極的に教育活動に取り入れます。

ア 豊富な教育資源から学ぶ活動

人、自然、歴史、文化、産業、景観等に恵まれた内浦地区、西浦地区の特性を生かした豊かな体験学習を積極的に進めることにより、地域に誇りを持ち、地域のために行動しようとする態度を育みます。

みかんについての学習や海に関わる体験、職場見学や職場体験等、内浦地区、西浦地区の多種多様な教育資源を活用した体験学習・探究学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得するとともに、自主的・自発的な学習を促進し、地域を愛する心や地域のために行動する態度を育みます。

(2) 地域とのつながりの中で学ぶ活動

- ① 地域の方の協力を得ながら学習の充実を図ります。
- ② 地域の行事等へ積極的に参加し、地域とのつながりを強めます。

ア 地域との協働

学習支援ボランティアなどから校内での学習に対する協力を得るとともに、NPO法人や地元企業、漁協、JA、地域おこし協力隊、地域の方々などからも、学校外での体験学習の場を提供していただき、子供たちの学習を充実させます。

イ 地域の活動等への積極的な参加

地域の祭典への参加や運営ボランティアとしての協力、災害発生に備えた地域防災訓練への参加、敬老会での発表、古紙回収や奉仕作業等、積極的に地域の活動に取り組み、地域の一員として主体的に行動する態度を育みます。

(3) 将来へつながる活動

「たちばな学習」*の実施により、9年間を通して系統性のある様々な体験学習を実施し、地域の将来を展望し自らの生き方に見通しを持つことができるようになります。

ア 地域学習・地域交流の実施

地域について学び、地域の人たちと関わり合うことで「ふるさと内浦・西浦」を愛する子供を育てます。また、発達の段階に応じて、地域とともに地域の将来について考え、地域と向き合い、地域とともに生きる自分を見つめることで、将来の姿を描くとともに、地域を愛する心情を育てます。

地域の「ひと・もの・こと」との関わりを通して、学ぶことの楽しさや成就感を体得できるようにし、自主的・自発的な学習を促進します。

イ キャリア教育の推進

地域の産業に関する体験活動、職場体験、保育体験、特別養護老人ホームでの交流、デイサービスセンターの訪問、静岡県東部特別支援学校中等部の生徒との交流など、体験学習の機会を設け、自己の将来や地域の未来について考え、地域から生き方を学んでいきます。

また、地元企業や団体の協力を得ながら行う職業体験や、卒業生による進路講話など、卒業後の具体的な進路について学ぶ機会も設定し、将来設計を行ったり地域の一員としてできることを考えたりする学習を推進します。

ウ 安全教育・防災学習の推進

学年や発達段階に応じて、身の回りの安全や防災対策などに目を向けられるようにし、学校や地域の調査やハザードマップの確認、地域で活動している防災士や沼津市職員などの外部講師を招聘しての防災学習を通して、安全意識や防災意識を高めていきます。活動に当たっては、自分事としてとらえながら、地域の「ひと・もの・こと」と積極的に関わり、調べたりまとめたり地域に発信したりする場面を設定し、地域の中で生きていく自分や地域の未来に役立つ自分について考え、持続可能な地域社会の一員として生きていこうとする意欲を培います。

* たちばな学習・・・長井崎中学校区小中一貫学校において、生活科と総合的な学習の時間を中心に行う9年間を通じた系統性のある体験学習・探究学習

IV 施設整備に関する基本方針

1 施設整備に関する基本的な考え方

子供たちにとってよりよい教育環境を整備するとともに、教育の質の更なる充実を目指し、内浦小学校と西浦小学校を統合し、長井崎中学校を併せて、9年間の系統的な教育課程を編成・実施する施設一体型小中一貫学校として整備します。

2 施設整備の主な方針

(1) 校舎

- ア 現在の長井崎中学校校舎を、4－3－2制の学年段階の区切りに対応した小中一貫学校の校舎として活用します。
- イ 教室の用途を変更するため、必要な工事を実施します。
- ウ 改修工事は、現在の校舎を使用しながら行います。
- エ 必要な教室を確保するために、特別教室の一部を小規格の普通教室に改修するとともに、特別教室の一部を改修して共用多目的化します。
- オ 普通教室へのICT常設環境の整備に合わせて、パソコン室を廃止します。
- カ 全教職員が日常的に情報共有を行う場と機会を創出するために、職員室を学校種別ごと設けるのではなく、小中で1つとします。

(2) 体育館・プール

- ア 体育館は、長井崎中学校の体育館を使用します。
- イ プールは、小中で兼用するため、水深調整用のステップ台を設置します。

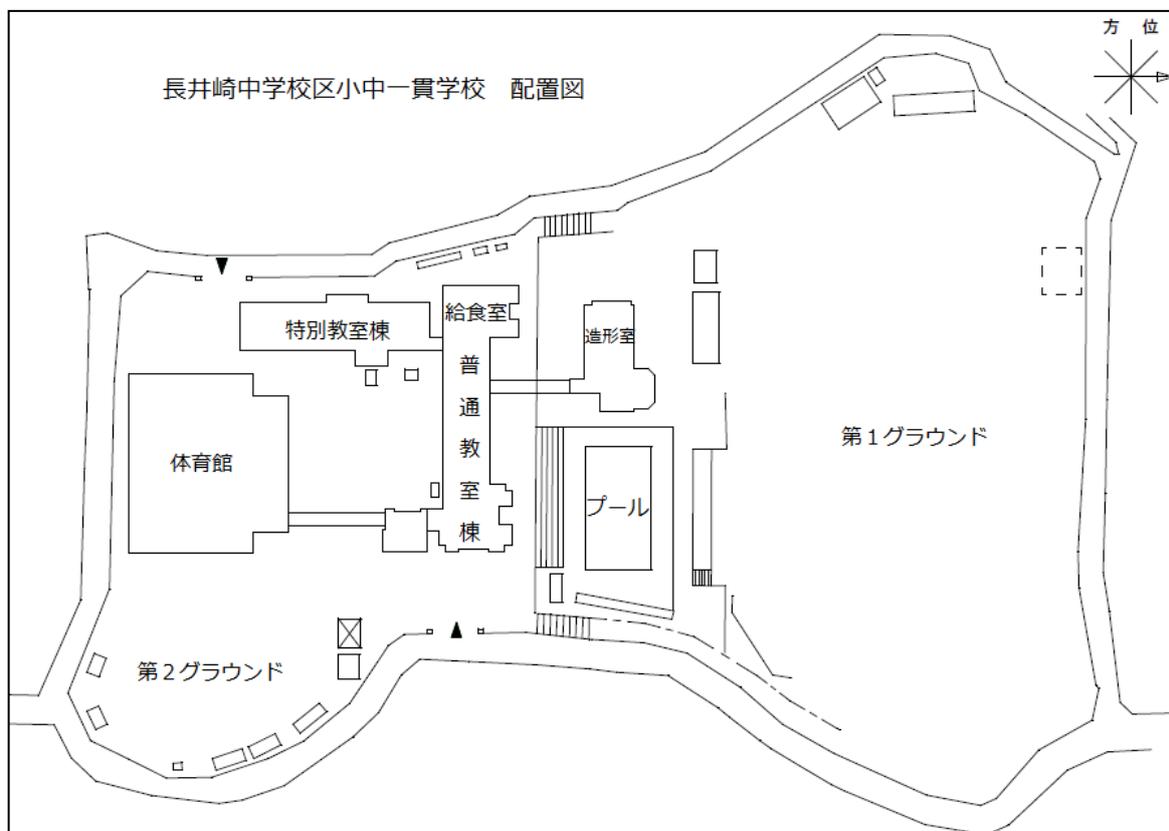
(3) グラウンド

- ア 現在の長井崎中学校の第1グラウンドをメイングラウンドとし、体育館東側の第2グラウンドは、主に低学年用のプレイグラウンドとして使用できるように、新たに固定遊具を設置します。

(4) その他

- ア 放課後児童クラブを設置します。

【参考】



長井崎中学校区の児童生徒数の推移

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
児童数 (小学生)	内浦地区	39	40	32	31	25	21	19	18	17	17
	西浦地区	59	55	54	46	43	39	29	27	22	19
	合計	98	95	86	77	68	60	48	45	39	36
生徒数 (中学生)		61	53	54	50	54	47	45	39	39	31
児童生徒数		159	148	140	127	122	107	93	84	78	67

令和元年11月現在

※ 地域まちづくり研究所の推計値 (H29.3) を元に、R1は実数を反映。R2以降は現時点での住民基本台帳を反映したもの